

平成27年度

京都市立嵐山東小学校

学校教育目標

育てよう 子どもの思い・思いやり

学校教育目標の実現に向けての主体者は、本校の全教職員である。

「育てよう」とは、そのことの責務を自覚し、学校自らがその意思を表明しつつ、保護者や地域社会にも積極的な理解と協力を求めるものである。

「思い」とは、主体的に考え方行動する児童の姿であり、自立と自律を包含している。自立は主体的かつ責任ある行動であり、自律は自らの行動や感情を相手意識を持って規制しつつ、自らを高め磨き続けることである。

「思いやり」とは、相手の立場や気持ちを積極的に理解しようとする姿勢や態度であり、日常生活のあらゆる事象に対する豊かな想像力でもある。実生活に根ざして考え、より豊かな人間関係を築きながら、自らの課題を解決しようとする行為でもある。

めざす子ども像

考え方 自分で <自律>

伝えよう 言葉で <発信>

受けとめよう 相手を <人権>

「考え方 自分で」は、責任と貢献を意識した主体的な自己形成を目指すことであり、自律した行為に通じる。

「伝えよう 言葉で」は、話し合いによる言語活動により合意形成の過程を多く経験し、豊かな人間関係の構築に向けて自らが発信する力である。

「受けとめよう 相手を」は、相手意識（他者意識）を持って、非攻撃的主張性（アーサーティブネス）を育む人権尊重の精神である。

めざす教職員像

学校と自分にゆるぎない誇りと自信を

教育活動（人づくり）を創造的行為として認識し、その中核である学校と指導の主体である教職員が、誇り（プライド）と自信（カンフィデンス）を持って子ども達と共に充実した教育活動を展開する。そして、専門職（プロ）としての自覚と力量、子どもへの深い愛情、確かな指導力、豊かな社会性や発想力を広げ高める努力が必要である。

また、そのような姿勢が私たち教職員のゆるぎない誇りと自信となり、自校に愛着を持ち、児童の自尊感情の育成にも大きく影響を与える。

めざす学校像

国際感覚を持って伝統や文化を担う嵐山東小学校

京都市は、「文化都市」「国際都市」としての多様な特性を持っている。嵐山東小学校は、その中にあっても際立って自然や歴史的に恵まれた環境である。本校は地域の伝統や文化の担い手であることを誇りに、国際感覚を持って次代と自らの未来を切り拓く子どもの育成をめざす。



平成27年度の重点項目

- 合意形成の過程を重視した「言語活動」
- 自律と貢献を意識した「協働活動」

学校教育目標の実現に向けて、京都市の「学校教育の重点」と本校の実態、これまでの取組の経緯を踏まえ、独自性のある取組を展開する。

■合意形成の過程を重視した「言語活動」

すべての教科・領域や各行事で、「話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと」に加え、話し合いによる「合意形成の過程を経験させること」を重視した指導を推進するとともに、子どもの姿の変容につながる「確かな学力」の定着を図る。

■自律と貢献を意識した「協働活動」

学校のきまりや社会の基本的なルールを守る態度は、相手意識（他者意識）と自律した子ども同士の合意形成の過程（プロセス）の学習と経験により培われる。すなわち、集団での活動を通して、感情や情緒のコントロールと自己の果たす役割と責任を自覚することのできる経験の積み重ねにより、社会に通用する正しい判断力や確かな価値観が育まれる。